

き

ら

め

き



「にこちゃん喫茶」

第43号

各事業所ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://hakukou-kai.or.jp/>

各事業所のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成 29 年 8 月 31 日 社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく ケアホーム COCO	〒299-1607	千葉県富津市湊 1070-3	☎ 0439-67-3711
豊岡光生園	〒299-1742	千葉県富津市豊岡3535-1	☎ 0439-68-1711
相談支援センター天羽			☎ 0439-68-1833
三芳光陽園	〒294-0825	千葉県南房総市上堀 280	☎ 0470-36-3211
鴨川ひかり学園	〒299-2854	千葉県鴨川市代 1297	☎ 04-7099-3311
ひなたホームズ			
湊ひかり学園	〒299-1607	千葉県富津市湊 934-18	☎ 0439-70-6551

風と語りう

『若者と女性が』

活躍できる職場を』

中学生プロ棋士で二十九連勝の快挙を成し遂げた藤井聡太四段や、アジア選手権で中国選手を打破して優勝した平野美宇選手が、若者の活躍として話題になっています。

自治体の首長やベンチャー企業のトップで辣腕を振るう女性も珍しくなくなりました。国の施策としても『一億総活躍社会の実現』をスローガンに掲げています。硬直化してきた社会を風通しの良いものに変え、柔軟な力を取り戻すのは、若者や女性であろうと思います。だからこそ、若者や女性が活躍できる社会、環境づくりを行うことは、とても重要な課題なのだと思います。

常に人材不足で離職率が高く職員が定着しないとされている福祉・介護の職域も、職種にまわりのつくづくというイメージを払拭する必要があります。国・自治体の施策はもちろんです。それぞれの社会福祉法人、各事業所において、この仕事、ほんとうは心豊かでクリエイティブであることを若者に気づいてもらい、希望あふれる職域にしていかなければなりません。

それにしても、多くの社会福祉法人で、マンパワー不足、職員採用が喫緊の課題となっているのが現実です。当法人も例外ではなく、大学の就職

説明会などにも足を運び、この仕事の魅力を粘り強く伝えてきました。

初めの頃は、就職説明会の会場で当法人のブースは閑古鳥でした。それでもめげずに若手のアイデアや女性職員の感性を取り入れ、趣向を変えて取り組む中、ブースに立ち寄る学生も増えていきました。

こうして昨年度は、女性四名の新卒者を採用でき、今年度も男女七名の新卒者を採用することができました。一〇二名採用できれば御の字のこの職域で、予想以上の成果でした。

湊ひかり学園にも、去年と今年二名ずつの新卒者が配属されました。今年度配属された一名は、湊ひかり学園の実習を通じて就労しました。これから新卒者は文字どおり金の卵です。大切に育てて活躍できる場、機会、環境をいっそう整えていきたいと思っています。

その昔、私が就労した頃はバブルの全盛期で、どの職域でも余裕があり、終身雇用の時代、時間をかけ採用者を育成してもらえたように感じます。その頃とは違い、今は就職すると即戦力が求められる傾向にあると聞きます。また、インターネットの普及で情報取得が容易になる反面、生のコミュニケーションスキルが痩せているようにも思えます。だから、人間関係によるストレスからの離職も多く、特に三年未満の離職率が高いそうです。

『石の上にも三年』といえます。

三年間は頑張ることで仕事の奥深さと本当の魅力が見えてきて、自分が着想したこと、努力したことが実を結ぶ機会に出会えると思います。すると、活躍の場がまた増えていきます。

福祉の職域は、きめ細やかな気づきが求められ、女性職員が活躍しやすい職場です。子育てと仕事が両立でき、職場で不利益な扱いをされなければ、持ち味を発揮できて、それこそ「良い仕事をしてますねえ」となると思っています。湊ひかり学園の職員は女性が六割、役職者も六割が女性。仕事と家庭を両立しながら働いています。私は、柔軟で細やかで切り替え上手な力に、この仕事の持続力を期待しているのです。

人間関係に多大なストレスを背負い込み、孤立して追い詰められ、バーンアウトしてしまうリスクが大きい現代社会。若い感性、女性の力で、柔軟で寛容で何でも話し合える風通しの良い職場環境を整え、このリスクを回避し、ますます良い仕事をしていきたいと思えます。私自身ストレスを感じやすい私たちですが、それを強みに変え、若者と女性の力を信じ、利用者の生きる力に支えられながら責務を全うしていこうと思っています。

小宮



光陽

「春夏秋冬」

三芳光陽園で働き、十年の年月が経過しましたが、辛いこと、楽しいこと、様々な場面をお年寄りと共に過ごしてきました。

最近、なんとなく思っていることです。

四季を体感するための外出や美味しいスイーツを食べようツアーを企画し外出していますが、そんな外出先での皆さんの様子です。

季節の花を見て、

「ああー綺麗だね」「もう春なんだね」と、皆一様に笑顔になります。

カメラを向けると、腰が曲がり前屈みな姿勢の方も背筋をピンと伸ばし、和江さんも満面の笑みと恒例の両手でのピースサインで

「はいチーズ」。

スイーツを食べようツアーでは、きれいな盛付とボリュームに

「美味しそう」

と歓声が聞こえるが、食べ始めると食べ終わるまで、終始無言。

食べ終わると

「美味しかった」「また来ようね」

と、満面の笑みで話されます。



菜園での季節野菜の収穫の時は、

皆目を輝かせながら、

「大きいね」「美味しそうだね」

と楽しそうです。

収穫した野菜を食べる時は、

「俺が採ってきた野菜だぞ」

と自慢している佐藤さんの嬉しそ

うな顔は格別です。

普段何気なく生活し、仕事をしていると、時々で

もいから、皆と一緒に笑える楽しみがあるとい

と、つくづく思います。

四季の旬を満喫し、美味しいものを食べている時

の素敵な笑顔と出会うことが、私の仕事の源とな

っています。今後も皆さんにどんな楽しみを味わっ

てもらえることができるのか、そしてどんな表情に出

会えるのか、楽しみで仕方ありません。

高橋

「園の中の力持ち」



今日もある部屋から、テレビの大きめな音量が聞こえてきます。

その部屋の住人である六谷さんは、部屋でテレビを見て過ごすことを好まれ、レク活動にも殆ど参加

されません。他人と関わるのが苦手という訳では

ないですが、独自の時間を自身のペースで有意義に

過ごしているといった印象の方です。

ちょっと気難しい性格の六谷さんですが、目立た

ないところで、すごく大活躍しています。



ある日、洗濯場からユニットに洗濯物が届き

ましたが、職員も慌ただしく、バタバタしてい

る状況の中、気が付くと、大量にあった洗濯物

が全て畳み終わってきれいに整

列してあります。

しかも職員が畳むより丁寧な

『いい仕事』です。

先程まで、部屋に居たはずの六谷さんが、誰

に頼まれた訳でもないのにさりげなく仕事を

こなして、また部屋に戻られたのです。

シート交換の日の出来事です。

その日は機嫌が悪いのか、職員から話しかけ

ても何も答えてくれません。

そんな時、六谷さんは、少々ぶっきらぼうに

「ねえ、シートと布団カバーを二枚ずつ持って

来てよ」と一言。

六谷さんに手渡すと、同室者のシ

ート交換も黙ってやってくれます。



「ありがとう」と、お礼を言っても……無言。

でも本当に感謝しているんですよ。目立たな

いところでの大活躍に……。

まさに「縁の下の力持ち」

いや、「園の中の力持ち」ですね。



本橋



豊岡光生園

園だより

『鉄腕ダッシュ』

康弘さんは体が大きく力持ちだが、身のこなしは抜群である。

ある朝、冷蔵庫を開けると水がない！

「困ったなあ。これじゃ、おいしいお茶が入れられない。一階から水を運ぶの大変なんだよな……。」

と職員がぼやいていると、ふとソファに座っていた康弘さんと目が合った。康弘さんは無類のお茶好きである。

頼んでみると、ひょいっと手をあげて「おお、やってやるよ！」の合図。職員と小走りで一階へ降り、二階のペットボトルが六本も入った箱を重たそうに運んでいたかと思いつと、最後はタタタッと足早に「ニッ」トへ届け、誇りにげにソファに腰を下ろしていた。そして感謝のしるしに職員が入れたお茶をすすり、至福のひと時を過ごすのだった。

またあるときは、山のような洗濯物を両手いっぱい籠を重ねて抱え込み、階下の洗濯場まで飛脚の宅急便のごとく素早く運んでくれたのであった。

ちょっとした力仕事があると、若い職員にも負けないう康弘さんの力強さに、私はいついつい頼ってしまうのだった。

(いつも有り難うございます。康弘さん)

高梨



『あのはじめまして』

四月から豊岡光生園で勤め始めて半年が過ぎ、色々な個性を持った利用者さんと出会うことができました。

初めは早く仕事を覚えなければと、とにかく話しかけてみましたが、相手は

(あんだ、だれだっけ?)

と思ったのか、チラッとこちらの顔を見てくれるだけでした。

それでも諦めずに毎日話しかけてみると、数人の方々が少しずつではありますが、

(ああ、この頃よく見かけるね)

という具合に気持ちを声に出し、握手をしてくれるようになりました。

そんな小さな変化がすごく嬉しくて、期待に胸を膨らませながら利用者さんと散歩に行ったり、ドライブに出かけたりしています。

ある日、先輩職員にコツを聞いて、俊也さんの

髭剃りと爪切りに挑戦してみました。

一八〇cm程の身長で、身振りも大きく、感覚過敏があって、爪切りや髭剃りがどちらかという苦手な彼。関わるにはちょっと腰が引けてしまいがちだったので、腹を決めた私を受け入れてくれたようで

(おい、早くしてっくれよ)

というような表情をしながらも、おぼつかない支援に最後まで付き合ってくれました。



利用者さんとの関係性は、これからじっくり時間を掛けて築いて行こうと思いますが、色々職員に分からない事を聞き、自分でも新たな発見ができるように、チャレンジ精神も大切にしていきたいです。

大谷

【大谷さんらしい表現で、自分のキャラも伝えちゃいましょう。

「何だか賑やかなやつ」とか、

「あぶなっかしいなあ、おれにやらせてみない」って思われたらめっけもの。案外そういう方が関係性が良くわかるかも。もっとびっちょやけてみよう。】



先輩職員より

「門」前屋での集い」



今年度より火曜日から木曜日は、一日を通したグループ活動になりました。その中の一つである「笑日和（えみびより）」のメンバーで、学園から車で十分ほどのところにある、小さな商店「門前屋」に訪問しました。

そのお店は、二〜三人も入れればいっぱいになってしまふ規模です。この日は、職員を含めた総勢二十人ほどのメンバーでバスに乗り、ここを訪れたために全員でお店の中に入ることが難しく、店前の広くなっているスペースに多くの人がいる状況でした。そのため、メンバーの顔に「どう行動しようか?」という戸惑いの様子が見て取れました。

すると、この状況を打開すべく、すーっと進みだして女将さんのそばに寄り、二二二二しながら「ごんちはー!」と挨拶したのが岩崎尚貴さんでした。



(みんな戸惑っているな、ここは俺の出番だー!)

彼はきつとこんな気持ちだったのでしょうか。私は全員と対面していたので、彼の行動のすべてを目にできていました。みんなの雰囲気を感じ、女将さんの思案を察しての機転行動。とても素晴らしいと思います。そして、次に歩み寄ったのが、なんと吉野さんでした。

(彼が頑張っているのだもの。私もね!)

岩崎さんの行動に対して、ボタン押しではない身をもっての「いいね!」を示した彼女の心意気。こちらにもまた惚れ惚れとしました。

そこから集団が一気にほぐれていきます。自然と会話や笑い声が飛び交う雰囲気となり、とても楽しいひとときとなりました。

その一か月後、再び、笑日和のメンバーで門前屋さんを訪問したときには、「菊のさし木」の方法を教えてもらいました。園芸の得意な新川さんは、ポットに土を詰めるなどの作業に自主的に取り組む姿が見られ、それをフォローする幸平さんや、先日に引き続き、その場の空気を読み、「いいね!」の気持ちを表す岩崎さんの存在感は、この日も輝いていました。

最初からお店の人と仲良くなりたくて仕方ない様子だった仲川さんは、

「私と握手しようか!」

の声掛けに、照れながらも嬉しそうに女将さんと握手をしていました。

「そろそろ帰るよー」

の職員の声掛けで、みんながバスに戻り始めています。

「僕が描いた絵を今度見てください!」
と話し始めたのは磯部さんでした。次回の訪問も楽しみですね。



誰もが主人公になれた門前屋での集い。職員は細かいところのフォローに入っていたものの、全く目立つことなく、この日の流れは利用者それぞれがつくっていたと思います。

その翌日、送迎の途中で訪問させてもらったお礼をしに行くと、お店の人も昨日のことをいろいろ喜んでくださいました。「街の中に受け止めてくださる方がここにも生まれました」と感じました。

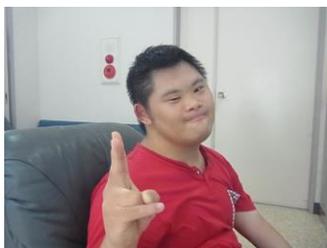
(こもり・ほっと報告書より)

「ようこそ! 鴨川ひかり学園へ」



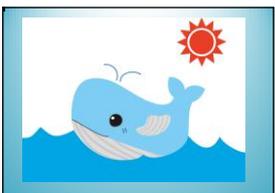
四月から新しく学園に仲間入りのした

浦邊夏希さん



これから楽しい思い出を

たくさん作っていきましょう!



縁の下の力持ち

湊ひかり学園には、看護師の私を含めて三人の保健係がいます。今回のお話は四人目の保健係（仮）のこうすけ君のお話です。毎朝、私は一つのかごに利用者さんが持参した薬やおたよりの返事、集金等を集め、保健室&職員室まで持ってきていきます。はじめのころは、私が作業している時に人なつっこいこうすけ君が近くにいることが多かったので、「こうちゃん、これ一緒に持っていく」とお願いしていました。そんなある日のこと、お薬等をかごに集め終わり、今日もこうすけ君に頼もうかな〜と思って探してみると、こうすけ君はおもちゃで遊んでいました。

（今日は別の人に頼んでみようかな？）

お願い出来る人が他にいないかキョロキョロしていると、パッとおもちやを離し、テテテテ……と走ってくるこうすけ君。

「僕の仕事だ」と言わんばかりにかごを持ち、「さて、行きましょー」みたいなドヤ顔。おもわず笑ってしまっただ私。さて今日も保健室へ！

しかし、その道のりは決して平穏ではありません。二人で歩いていると、いろんな人が声をかけてきます。その中には「そのかごをちょうだい！」「とわざとお願いしてくる職員も。」「最後までかごを守り抜くのよー」と何度も話す私。はじめのうちは、「ちょうだい」と言われると、すぐにかごを離してしまうこうすけ君でしたが……。



ある日、またまたかごを狙われた時のこと。その職員がかごの端を持つと、手に力を入れて、取られないように頑張るこうすけ君の姿が！



そんな姿を見ていると、「はじめのおつかい」を陰から見守る母のような気持ちになる私でしたが、次の瞬間、職員がかごの中に入っていたタッパーを取り、「じゃ、これあげるからかごちょうだい」と言う



と、こうすけ君はパッとかごから手を離してしまい、私も職員も思わず「おいっ！」と突っ込んでしまいました。



毎朝こんなやりとりで元気にしてくれるこうすけ君。毎日ニコニコ笑顔



でお手伝いしてくれる彼は、私にとって縁の下の力持ちなのです。

（赤坂）

出会い



平成二十九年六月二十二日、富津市総合社会体育館で富津ボッチャ交流会が開催されることとなり、湊ひかり学園からは、利用者五名、職員三名で、二



チームに分かれ参加することとなりました。



参加する利用者も決まり、「さあ交流会に向けて練習しよう！」と意気込んでみたものの、ルールが全くわからず、道具もない。どうしよう？



とりあえず動画や本で調べ、「こんな感じかな？」と練習を始めたのが交流会三日前のことでした。



参加者のまいさんは、外出が大好きで交流会に出ること=車で外出することなので、この交流会をこ



も楽しみにしていたのですが、交流会三日前のまいさんは、ボールを掴んで投げる事が出来ないという状態。



しかし、めげることなく一生懸命ボールを掴んで落とす練習をし、当日にはなんとか形になりました。そんなバタバタした数日が過ぎ、あつという間に交流会当日を迎えました。



開会式では、正面に見た事のある車椅子の方が、リオパラリンピックで銀メダルを獲った廣瀬選手です！



メダリストと一緒に競技が出来るなんて！ と思ったのは私だけだろうか？ そんなことを考えている間に開会式も



終わり、競技がスタート。各コートでは応援や様々な歓声上がり、会場は大盛り上がりです。湊ひかりチームはというと、楽しく参加していただけで、気が付けば準決勝！ そのあたりから、



「楽しもつ」から「優勝できるかも」に皆の意識が変わっていました。



更に勝ち上がり、迎えた決勝戦。湊ひかりチームの皆さんは、持っているチカラ以上のものを発揮して、

『優勝！』



おまけにメダリストとのエキシビジョンマッチなんて貴重な経験も出来ました。



ボッチャを通じて、利用者職員が一つの目標に向かって協力し、達成する喜びを分かち合い、皆さんの可能性を見つけることも出来たとても素晴らしい一日となりました。



（鹿島）

ここ de COCO



氷川きよしコンサート

ほのかに入居している佐久間千代さんは、歌が大好きで、特に氷川きよしの大ファン。そこで、「六月の終わりに氷川きよし特別公演 in 明治座に行かない？」と誘ってみると、すぐに「行きたい！」と大喜び。

当日、朝早く迎えに行くと、もうすでに準備万端で待っていてくれました。高速バス乗り場まで歩く道のり、ウキウキしている様子がよく伝わり、スキップしているかのように、軽やかな歩きです。

明治座に到着し、まずはグッズ売り場へ。

千代さんは、氷川きよしの写真入り扇子とペンライトを選び購入。いざ座席へと参ろうか。

明治座は三階席でしたが一番前でとても見やすく舞台が近く感じる席でした。

千代さんの隣に年配の親子がいらっしやって、話しかけると、お二人とも初めてこの事で、意気投合し、みんなでわくわくしながら今か今かと開演を待ちます。

ブザーが鳴り、始まりです。

第一部にお芝居の「ねずみ小僧」きよしが出てくると、身を乗り出して大きな拍手をする千代さん。隣の人「かっこいいね」と話しかけると、「ニコニコしながら、何度もうなずいていました。」

次に、お昼休憩。

そのままの席でお弁当をお話ししながら食べ、

「どこから来たの？」

「あそこが良かったよね」

などと興奮冷めやらす。

ほどなく、第二部のコンサートの開始です。

歌に合わせ、朝に買ったペンライトを大きく振り、時には麻痺で拘縮した手のほうに持ち替えて振っていたのには驚きました。曲によっては、手拍子しながら体を曲に合わせて揺らし、ノリノリで楽しんでいました。

最後の曲は、千代さんのカラオケ十八番の「きよしのスンドコ節」で、きよしと一緒に歌いながらの終演。隣の親子に「また会おうね」と約束し、明治座を後にしたのでした。



ザザザキィ



休日の午後

「え、初めて会った人なの？」

とても天気が良い、お出かけ日和の休日、裕子さんたち「のどか」のメンバーは、歩いて近くの喫茶店にコーヒーを飲みに行くことになりました。

裕子さんは、今日は足取りも良く、猫や鳥を見かけては指さしたり、私の手を振ったり、とても楽しそうにしっかりと歩いています。

それを見た他の入居者さんもつられて笑いながら市民会館の中にある『喫茶店チャーム』に向かったのですが、あいにく貸切りのこと、コーヒーは断念しました。

「また今度行きましょう」

私が言うと、裕子さんは遠くの方を指さして歩き出しました。(次の所に行こうよ)と態度で示します。今日はとても積極的です。

すると、市民会館の駐車場で、着物を着ている方たちが楽しげに話しをしているのを見つけた裕子さんは、「あれー」と声をあげ、近寄って行くのです。(知り合いかな?)

後をついていくと、着物の方たちは微笑んで

「こんにちは！」と声をかけてくれました。

裕子さんも「ちわー」と挨拶を返します。

「今日も暑いね」

「でもいい天気で良かったね」

ハイタッチや握手をして、裕子さんはとっても嬉しそうです。

「さっき向こうで猫に手を振っていたでしょう」見えてくれたようで、少し照れ顔です。

「暑いから気を付けてね」

別れ際に手を振ってくれ、「はい！」と裕子さんも元気な返事をして、別れました。後で聞くと、裕子さんの知り合いではなく、初めましての方たちでした。

地域の人との小さな出会いがあった休日の陽ざしが強くなる午後の出来事でした。

太陽のしずく

『彼女とにこちゃん喫茶と私』

もう五年になりますが、太陽のしずくで働き始めた私は、一人の女性と出会いました。彼女は「いつか喫茶店で働きたい」という自分でみつけた夢がありました。この彼女の夢をきっかけに『にこちゃん喫茶物語』が繰り広げられていきます。

最初は太陽のしずく内作業スペースのカウンターを利用した『ブレ喫茶』でした。時折、遠くの喫茶店に出かけてコーヒーを飲み比べ、時には研修という目的で、店員の接客や店内のディスプレイなどを見に行きました。そしてとうとう今年五月九日、富津市湊に『にこちゃん喫茶』は店舗をもつことができ、夢が現実となりました。

地元でオープンしたけれど、人が集まるのかなか、皆不安でした。「来たー」と思うと薄光会の関係者ばかり……。それでも一週間が経ち、二週間が過ぎたころ、一般のお客様が来店するようになりました。

一人暮らしのおばあちゃんがホットコーヒーを飲みながら、昔やっていた草木染めの話をしてくれたり、子どもが小さくて遠出ができないお母さんがアイスコーヒーを飲みながら料理のアイデアレシピを教えてください、地元の二十代の若者たちが、一杯のコーヒーで閉店までねぼけた……。『にこちゃん喫茶』

(いいんです。儲けなんて)



にこちゃん喫茶は来店されるお客様で色々な色に変るんです。十人十色に変わるけど、地元の方が求めているものは、人と人の「つながり」なのだと思いました。にこちゃん喫茶が地域の交流の場となり、地元の方に喜んで頂けたら素敵だなと思います。うわさは口コミのように少しずつ広がり、一度来店してくれた方が家族や友人を連れて来てくれて、見えている人のその先にいる人にもここでは出会えるんです。

価値観や意識の異なる人同士はなかなか会うことはなけれど、にこちゃん喫茶には、そこに何か生まれる可能性があるんです。お金では得られない大切なものが繋がっていくという充実感を感じながら、いつまでも心に残る仕事をしていきたいと思っています。私は、まず彼女に出会えたこと、そしてにこちゃん喫茶で多くの人とのおたのしみな出会いに感謝します。『ありがとう』

(荒木)

『つれいー』



太陽のしずくでは、昨年四月から放課後等デイサービス(チームどろん子)が始まり、子どもたちが新たに太陽のしずくのメンバーに加わる事となりました。今回はその中の一人との出会いをお伝えしたいと思います。

しきさんは夏休み明けにチームどろん子を利用し始めました。当初は人見知り激しく、無口ではす



かしがりやな子でした。私との会話もなかなか盛り上がり、どうしたものかと頭を悩ませていました。

ある日『ポケモン』の話しをふってみたところ、目を輝かせて話に乗って来てくれました。その後もポケモンの話しを通じて盛り上がり、確実に彼との距離が少しずつ縮まるのを感じていました。

しかし、悲劇は突然やってきました。ポケモンの新しいゲームが発売され、しきさんはそのゲームに夢中になり、太陽のしずくも休みがちなってしまっただけです。チームどろん子はまだ、ポケモンに勝てないのかと、ショックでした。でも、めげずにチームどろん子の活動企画に力を注ぎました。

そんな日がきましたが、チームどろん子を利用する日も増えてきました。私だけではなく、他の子どもとの関わり合いや大人とのやりとり、イベントなどを通じて「しずくは楽しい！」と言ってもらえるようになりました。今では、利用日でない日でも、急ぎよ利用することもあるほどです。その時の彼の一言が忘れられません。

『だって、しずく楽しんだもん』

この一言で、いろんなことが、がんばれたり、元気をもらったりしています。この出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。

(松坂)

【編集後記】

今年は、梅雨を忘れる程に暑い日が多い中での編集でしたが、それぞれの記事を通して『こういう思いをしたんだ』『この利用者さんにはこんな隠れた一面があるんだね』と知る良い機会になりました。

(広報委員 松尾)